

発行/モザイク会報 編集 森敏美

モザイク会報事務局：〒185-0012 東京都国分寺市本町 4-12-4 号アートンシティ 104

モザイク会報ホームページ：http://www.maa-jp.com/ E-mail:maa@maa-jp.com

編集/作成：モザイク会報編集委員会

## モザイク展 2019

10月2日から7日まで横浜市民ギャラリーあざみ野で開催され、受賞者は以下のように決まりました。  
12月中にはカタログが出版上がり、会員の皆さんの手元にも届く予定です。



大賞・藤川幸子「ながい不在」



2賞・森敏美  
「AMBIVALENCE(1900)」



3賞・今野愛子  
「青い夜」



モザイクタイルミュージアム賞  
櫻井新也 「Opera widely」



名古屋モザイク賞  
藤田由美子「廻り」



佳作・なかの雅章 「人魚姫の隣」



佳作・岩瀬希子「Cyclades air」

## 審査員の講評



### 村田真

美術ジャーナリスト

BankART 代表（東京国立  
近代美術館の企画に  
関するアート  
スクール）

ネットの ArtScope で展覧  
会レビューを書いています

### モザイクで思うこと

この展、あいびとりエンターレ内の企画「表現の不自由展・その後」が、脅迫によって中止に追い込まれた。開会期間によりやく再開されたものの、追い打ちをかけられるように文化庁からの補助金が不交付となった。海外では、ウィーンで開催中の日本現代美術展「ジャパン・アンリミテッド」に対し、日本大使館が展示内容を問題視して友好 150 周年奉迎の認定を取り消した。ほかにも、福岡市のしんやり美術館で予定していた展覧の上映が抗議により中止されたり（後に撤回）、三重県の伊勢市館に「表現の不自由」をテーマにした作品展を企画しようとして撤回されるなど、立て続けに表現の自由を脅かす出来事が起きている。

モザイクを表現手段とするみなさんのなかには、こうした芸術表現に対する規制や検閲の動きが対岸の火事だと思っている人は、まだ多いのではないでしょうか。いや、ぼくなどは対岸の火事どころか、いまこそモザイク作事の熱い現場どころであり、法外ではないかとさえ思うのだ。なぜなら、検閲に対抗する有効な方法のひとつが「モザイク管理」だからだ。これは半分冗談だが、半分本気でいっている。モザイクは伝統的な技法であるが、決して過去の遺物ではない。使い方、考え方でいっても現代的表现に前赴できるのだ（画廊、モザイクをストリートアートに使っているアーティストもいる）。いまこそモザイクで検閲や規制と戦わなければならない！

と、久しぶりにアツくなってしまった。なぜこんなことを書いたのかといえば、今回（だけではないが）展示を見て、あまりに時代や社会から目をそらした意味的な作品が多いように感じたからだ。意味でつくるのは悪いことではないし、むしろ大いにやってもらいたい。でもそれだけなら悪い事はないし、ぼくや彼彼さんと呼ぶ必要もない、やはり呼ばれた以上、アツったり毒を入ったりするのがもともと思ったりするわけだ（笑）。

そんなわけで、唯一時代や社会を心にさせてくれたのが、二歳の森田真希さん。上部は真希のようなかたちで金魚柄をソフパブリシ、下部の波三角形に半世紀的のつげ昌典の傑作「なじみ」の1コマを引用して、不意な変化を運んでいる。大島の村川幸子さん、三歳の今野葉子さん、信希の森田真希さんは、いずれもぼくや彼彼を支持体としていたモザイクの記憶を蘇らせてくれる。もうひとり信希のなかの真希さんは、繊細なガラスの技法を板瓦よく高い視点で見た真希のもの、おつかれさまでした。



## 藤原えりみ

美術ジャーナリスト。  
1976年山梨県生まれ。東京  
藝術大学大学院美術研究科  
修士課程修了（造形専攻）。  
女子美術大学・東京藝術大学  
美術史大学 非常勤講師。  
著書に『現代絵画のいっぴつ』  
（朝日新聞社）など

モザイクといえばローマ時代かビザンティン美術を思い浮かべる程度の認識体験と知識しかなかったため、作品ごとに杉山真弓氏の解説をうかがいつつ鑑賞させていただきました。杉山氏の丁寧な説明を通して、素材の多様性、デッセラの切り方や形に対する作り手のこだわりなど、モザイク独自の表現を知ることで、大変に貴重な体験となりました。

デッセラという物質の形を覚え意識していく作業は、手で形を築き出す絵画とはまったく異なる思考回路と創作工程の組み立てでのヴィジョンが必要となります。絵画とは異なるメディアとしてのモザイクの特長に関心を持ちましたので、イメージの形を構築出す創造的な作品よりも、デッセラの物質的魅力を感じさせる作品に惹かれました。

数川博子さんの大貫作品「Long absence（長い不在）」は、まさにそうした物質的な素材の力を強く感じさせる作品です。画面を覆い尽くす粒形の密集は、ドローン撮影による無人キャンプあるいは見捨てられた都市の廃墟を思わせます。静寂な作品ながら、無気力の過剰な一徹さや人間の営みの不在へと、見る人の想像力がもたらせるものを評価しました。

二階の森根美さんの「APERTURE 1909」は、透けたトタン板の凹凸と角型などを点むデッセラの質感が組み合わせ、三角形と筒のような形が重なり合っていました。同様の人物や動物の形に最初は違和感を感じたのですが、村岡さんから「あれはついで義典の『なじみ』じゃないかな」と指摘され、「おっっ！」（驚きですすみません）。だからCoca Colaなどの文字のある素材が使われているのか——と納得、明確なメッセージ性に評価をもちました。

そして三階の中野美子さんの「長い虹」。モザイクといえば平面という固定概念に囚われていた私には、「このような表現もあるのだ」と驚きました。デッセラの材質と向き、色合いの微妙な違いにより、まるで人の手が作り出したものではなく、自然物であるかのようにも見えます。鑑賞だけでなく実際にしてみると、また見え方が違ってくるのではないかと感じます。

四作目の新妻希子さんの「Cyclical air」は、凸凹の意図を言うデッセラの造形が主眼ですり又ムが強いと思いました。またなかの船原さんの「大貫 夏の間」は、絵画的ユニークさに「してやられた」感があります。99単位で寄せ集められた金太郎飴の手法による個々の人物の顔の表情の豊かさ、変わり丸や輪など、ひとつひとつに異いを詰め込む。画面に入ってきてしまいました。その（無駄な一歩め程度です）丸方に敬意を表します。

これほどまでに多様なモザイク作品を拝見したのは初めての経験で、とても面白い機会をいただいたかと思っております。

今回新たに名古屋モザイク賞が創設されました。

前回は引き続きモザイクタイルミュージアム賞も選定されました。

それぞれの選考を担当して頂いた方に授賞の感想や基準を語って頂きました。

## 名古屋モザイク賞

相澤昭郎（同社代々木ホシールーム勤務）



現代モザイクアートの芸術性は、その軸向として独創的な表現に優位性があるように見える。しかしながら、過去を振り返ると、中世以前のモザイクは、身近にある動植物や人々のような具象的題材をモチーフとしていたものも多い。

名古屋モザイク工芸は、素材を問わず、高いアート性を旨としながらも、あえて万人にわかりやすく、親近感がわく具象的な作品を選ばせて頂きました。「賑り」は、見た瞬間は何を表現しているのか、わかりませんでしたが、よく見ると人が何首を揃けて、うつ伏せになっています。大小様々な大きさの白い石のチップの並べ方にはリズムがあり、顔の部分に複数の色の彫刻で表現した技術も驚かされていました。現代的に再構築された古典として、高く評価させて頂きました。

## モザイクタイルミュージアム賞

村山剛（同館学芸員）

モザイクタイルミュージアム賞の選定について

モザイクタイルミュージアム賞の選定という機会をいただき、モザイクとは何か改めて考えました。モザイクとは、平面、立体、どのような画面だったとしても、小さなパーツを組み合わせることで表現する作品といえるでしょう。パーツの並び方や組み合わせ方が、画面構成の巧み同様に作品の立ち方や情緒を左右しますので、タイルの縦や横の向きを徹底基準とすることは、作品の可能性を制限することになりかねません。そこで、「いかに自律的に『タイル』が生かされているか」というあいまいな基準を掲げさせて頂きました。

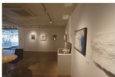
櫻井裕也氏の作品は、概念的な「タイル」のイメージといえるような、「目地」で区切られた49個の正方形で構成されています。それぞれの正方形は、同系色の様々な素材を小片で組み立てた感じのものです。その中に、空間の連続感あるモザイクタイルとわかる欠片がきらりと光り、強く印象付けられました。



# オリエアートギャラリー「モザイク展 2019・オリエセレクション」

## 10月10日～21日

あびみ野での展示作品の中から作品を選び、オリエアートギャラリーで展示されました。  
海外作品 18点と日本の作家の作品 9点、17点です。  
日本作家の展示は以下のとおりでした。



櫻井美智子、坂井理枝（3点）、松尾正徳美、杉山洋行、松本浩子、なかの雅幸、松澤敏美、藤原孝子、藤井聖治



あびみ野での展示とは別の視点で作品が選ばれました。どういった視点で選んだか、オリエの創作者に聞いてみました。

## モザイク会議のみなさまへ

この度は素敵なイベントに選んでいただき誠にありがとうございます。横浜市民ギャラリーあびみ野では、たいへん熱のごもった作品、目新しい技法や表現を多数拝見し、とても楽しい時間を過ごせました。海外作家とともにモザイク会議様の9点の作品をオリエアート・ギャラリーで展示させていただき、会場がコンパクトになったことでまた作品の表情は変化するものだなと、新しい楽しみ方を見つけてさせて頂きました。

スペースの関係で、大変難題ながらオリエセレクションとさせていただいた招待作品は、後にパブリックアート目標で、様々な建築物（ホテル、高級マンション等）との相性を考えてお願いをしました。弊社では、2016年にご紹介いただいた CaCo3、デュジャンド・マッシュネスの小作品を毎年納品しています。いずれも高級マンションで、強い印象を負けない強いアートをとのご要望がない、うまくマッチしました（手続的にもマッチしたこと重要です）。この流れに続く作品を探しています。他格的な作品は「場所ありきの美術作品」を勝手にながら空想しつつ、作家様へは今後建築案件提案に具体的にご紹介できればと望んでいます。招待作品は開放？となりますが、奥深くできるお言葉をよくに聞かせたいという作品ばかりで、こちらも大変満足しております。

9作品のコンセプト文をいただいたことで作品の理解も深まりました。反対に見えていた作品が多くあることもあらためて気付いた次第です。今後またこのような機会がもてますことを楽しみにしております。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

2019年10月18日

株式会社 編 組 松本 久美子

# 多治見モザイクタイルミュージアム

モザイク画 200 以上の複製品と原が多治見で、展示されます。  
海外制作の品と複製品、それに参考作品が展示されます。  
ポーランドのマチルダ館日に合わせて同館でワークショップ開催します。  
その開催はPT に記してあります。



## 「世界のモザイク・今」

2020年1月25日～5月10日

あざみ野での展示の様子



展示会の様子



展示会の様子



2階で行われたモザイク史講演の様子



2階、新モザイク教室の展示

## シカゴモザイク展

前号で紹介したシカゴモザイク展の写真  
審査締め切りは2月15日です。  
詳細は前号112号を確認のうえ、応募よ  
ろしく。

モザイク通信112号はモザイク会誌の11P  
に掲載されています。

### 新入会員

相澤乃亜子  
1972年生まれ  
愛知県小牧市在住



学生時代にイタリアのポンペイの遺跡やルーヴ  
ルのヴェロの建築物を見て感動。ずいずいとモ  
ザイクの魅力に引き込まれていきました。  
下手こそですがモザイクの世界が大好きです。  
よろしくお願ひ致します。

## 東京藝術大学

### 壁画第2研究室展

2019年10月26日(土)～12月3日(水)  
会場・京 上野公園正広法堂は「ボレロA」  
2階・Break スペース(シブヤクタワー)  
壁画研究室有志4人による展示です。



若崎英樹 「解放」

2019年5月～2020年3月中旬まで展示中  
東京都上野公園「芸術の散歩道」にて  
2019年東京藝術大学展、特別作品展より  
選出され、展示整理事務を担当しました。  
その内容を紹介します。

## マチルダのワークショップ



モザイク展2019に海外招待作家として「水鏡館」出品してくれた、  
マチルダ・トラセウスカ（ポーランド）が来年1月下旬に来日します。  
折角の来日なので、ワークショップをお願ひしました。

◎多治見モザイクタイルミュージアムにて

1月25日(土)、26日(日)の二日間 参加費 8000円(予定)  
ちゅうどモザイク展2019の海外招待作品と委嘱作品の展示  
「世界のモザイク・キ」の初日に当たります。

◎東京国分寺、モザイク会館事務局にて

2月1日(土)、2日(日)の二日間 参加費 10000円(予定)

絵画とモザイクを組み合わせた彼女の技法を指導することになります。  
時間や所持品などの詳細は次号のモザイク通信で発表します。

# 2020年オリエ展開催日決定

会期・2020年9月28日（月）～10月3日（土）

会場・オリエアートギャラリー

〒107-0061 東京都港区北青山2丁目9番16号 AAビル1階

会員有志によるテーマ展。

応募期間は1年に行われます。作品はテーマを決めて制作することです。

多くの会員の参加を待っています。

現在テーマを検討中です。広く意見を求めます。

検討中のテーマは以下の通りです。

- 「25」 モザイクの歴史が25年になるので、それに対する思いを作品にする。
- 「火」あるいは「水」
- 「石、タイル、ガラス以外の素材」 普段使わない素材で作品を作ってみる。
- 「象眼モザイク」 下絵に合わせた形状で素材をカットして組み合わせる技法で作ってみる。
- 「2020年」 2020年の世界や社会や自分を表現してみる。
- 「TOKYO」
- 「照明モザイク」
- 「極楽浄土」
- 「結晶華だらけ石だらけ」
- 「7色十石（なないろといし）」
- 「祭り」
- 「虹屋」
- 「Borderless ボーダレス展」
- 「看板モザイク」
- 「二重展」 二層以上異なる素材を使う

テーマになりそうな案を思いついた人は資料までメールください。king@ec5ao-net.ne.jp

また、上記の案のうち気に入ったものがあれば、それも教えてください。

12月毎月の運営委員会で決定し、次号の号サイク通信1月号に掲載します。

同時に開催要項も掲載します。